

## 菊川地区出身

## 山崎隊士小好五郎について

会員 浴 井 秀

山崎隊は慶応元年（一八六五）四月十五日に結成された徳山藩の諸隊の一つである。諸隊は萩本藩では文久三年（一八六三）六月に高杉晋作によって奇兵隊の創設をはじめとして防長にはその総数、百数十隊といわれる隊が続々と結成されているが、長府報國隊は慶応元年、同年清末の育英隊、翌二年岩国建尚隊が各々、各支藩に結成されて行った。徳山藩では本藩と同様に文久三年以降、大砲を鑄造したり、足輕以下の者や、農商人を集めて銃陣の訓練をしたり、火薬などの取扱実技などの教育をした。毎月六日間訓練は行われ、朝から夕方までみっちり訓練をした。訓練の目的はこの中から成績のよい者を農兵として組織化し、軍事力として利用しようとするものであった。このような事態はいくまでも同年に行われた本藩の外国船砲撃による外国軍隊の報復侵入に対する防衛手段であった。勿論、討幕も十分意識されていたことはいくまでもない。

山崎隊は有志の者からなる隊であるが、その中には農商出身と若干の藩士の者もあった。山崎隊は徳山藩の強力な指導のもとでその体質は藩士並として成長した。隊員は伍長に、

伍長は隊長に、隊長は総督の命令に従うという軍隊内の命令系統が重視された。たとえ戦功があっても命令外のことであれば処分の対象になるといふ隊則で定められている。その隊

則はきびしかった、尚、山崎隊人名録には伍長の外に「押伍

「伍中」「伍尾」「嚮導」「司令」などの階級があるがその

命令系統などはよくわからない。きびしい隊則の一例をあげ

て見ることにする。

一、徳山西町篠原虎四郎源友則十九才は脱走且つ婦人を連

居重罪鼻首の所、割腹鼻首だけは免れ首級は親元え被

下候事云々。

二、徳山村舞車、久保敬二郎二十一才は御貸刀を盗取且つ

隊中之者の刀を奮い売払等致候故八月二日田平において斬首せらる。

このような農兵隊は「銃陣小隊」と称せられ、元治元年（一八六四）には二隊あった。

その一 長野保蔵以下五十三名の隊と、その二 木村金石

衛門以下八十三名の隊である。この外「富海の町農兵銃陣」という名も見えているが詳かでない。また、隊の屯所として

神式葬の墓



徳山藩西部地区では、政所の善宗寺、新町の浄真寺、古市の勝栄寺、土井の建咲院などとり沙汰されているし、血気にはやって乱暴した刀痕など伝えられているものがある、山崎隊人名録十七頁に

「小田好五郎二十四才、故四熊村畔頭、松亀銀蔵組 林左衛門 卒 乙丑十一月廿日入隊丙寅二月十四日有罪、伍長之切嗟ニヨリ悔悟自ラ割腹ス 建咲院山ニ神葬ス。」との記事がある。

建咲院山の西端の崖の上に、今にもすべり落ちそうに枯葉の中に横倒れになっている墓石を見付けた。



仏式葬の墓の側面



徳地探訪会参加者 月輪寺にて

正面 小田好五郎之墓

側面 慶応二丙寅二月十四日死 二十四才

これはまぎれもなく人名録の記事通りの神葬墓である。

さて、前記の人名録に四熊村、松亀、銀蔵組、林左衛門をつきとめねばならない。先づ四熊の人であること、松亀は「松兼」のあて字であるときめつけて松兼部落を探した。松兼には有線電話帳を見ても小田姓が十一戸ある。さて、名刑事よろしく、多くの徒労と試行錯誤の果て、ついに仏式葬の墓を見付けることが出来た。

小田院義岳良勇居士居

小田好五郎ノ墓

明治十年丑之二月十四日

とある。明治十年はこの墓を建立した命日と思われる。また、好五郎の末裔の小田家を訪ねて位牌を見た。「山崎隊二入隊戦死ス」と添書があり、除籍戸籍を見せてもらった。父林右衛門の名もはっきりと見える。ただ、林右衛門と林左衛門の違いだけである。本年の六月十二日午後一時、あの建咲院山の落葉の中に埋れて倒れていた仏のお導きによって、その末裔に巡り合い、その位牌の前に香を捧げる手が感激と懐古にふるえた。そして近いうちに建咲院山の倒れた墓石を建て直して遺族の方に香をあげて戴きたいと計画を進めている。